

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1270500760		
法人名	有限会社 錦秋会		
事業所名	グループホーム木かげ (そよかぜユニット) 黒沼		
所在地	千葉市緑区土気町1500-1		
自己評価作成日	平成24年1月10日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kaigo.chibakenshakyu.com/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	
所在地	
訪問調査日	

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者さんの意思(想い)を大切にしています。地域の方との交流を大切にし、顔見知りの関係を築けていると思います。入居者さんはもちろんですが、ご家族さんからも「木かげで良かった」と言って頂けるホームを目指しています。私達の理念は「笑う門には福来る」です！

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「笑う門には福来る」入居者さんが笑顔で過ごせる様日々希望を出来る叶えられる様にスタッフが協力している。 ボランティアの方が定期的に来て下さり、入居者さんが笑顔で楽しまれている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新聞を隔月に作りコンビニや農協に掲示させて頂いている。日々の挨拶・地域の祭り・地域サロンの行事に参加、外部ボランティア・近隣中学の職場体験等交流を深めている。日常的に、あまり交流出来ていない。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症の勉強会を行い理解・協力を得ている。入居者さんが、ご近所の庭から枝等を頻繁に持ち帰る為お詫びに伺った。散歩をされる入居者さんの対応方法を近隣住民の方に説明をしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	定期的に行っている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	市町村の方が来て入居者さんやスタッフと実情を話し合う機会があるが頻繁には行っていない。 事業所は協力関係を築くよう取り組んでいる。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	事業所内外の勉強会で学び、身体拘束、言葉の拘束スタッフ間で声を掛け合って注意している。日中は施錠しない。 21時から7時まではご家族様に承諾を頂き玄関の施錠をしている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待とは？と常に自問し努力している。スタッフが楽しく働けるようにしている。 事業所内外の勉強会で学び、スタッフ間で話し合いをしたり、声を掛け合っている。		

【評価機関】

特定非営利活動法人VAICコミュニティケア研究所

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度について軽く知っているものの、もっと学ぶ必要がある。担当入居者さんに必要かと思いご家族に伝えたことがあるが以後学んでいない。個々で学ぶ程度。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又はや改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の際には、ご本人・ご家族に十分説明している。必要時には主任・ホーム長と相談しご家族へ説明をして貰っている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	意見箱の設置・意見を言い易い関係を築ける様日頃から報告・コミュニケーションをしている。面会時・イベント時等にご家族の意見を伺いスタッフ間で共有し反映させている。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	運営会議は無いが、日ごろから気付いたことを管理者に伝えている。日々の業務の中で取り上げ、反映されている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	やりがい・向上心が持てるよう管理者より励ましを頂き日々精進している。出来る範囲で努めてくれている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に参加することを勧めたり、勉強会をしたりして学ぶ機会を設けている。折に触れ、アドバイスがある。勤務上余裕がない為、研修の機会が少ない。もっとホーム外での勉強会に参加したい。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	同業者と交流する機会がない。外部の勉強会や研修で交流し、情報の交換をしたりしている。他事業所を見学する機会を作ってくれている。		

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援						
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	初期こそ小豆に声掛けし安心して何でも話せる関係になれる様アセスメントシートを使いご本人を良く知る様努めたり入居者さんの希望を伺ったり、汲み取る様にしている。			
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居時「どの様に暮して欲しいか」「何処を気を付けて欲しいか」を充分話し合い、生活の中でご家族が思った事・感じた事を言って頂き不安・要望に応えられる様スタッフ間で話し合ったりアドバイスをしている。			
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご家族・入居者さん・管理者・ケアマネ・スタッフそれぞれの目で入居者さんの今必要としている支援を見極める様にしている。情報を共有するようにしている。			
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ともに食事を作り・掃除をして・共に暮らす物となっていける様に出来ることをして頂ける様に要望を聞いたり努力している。			
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族と良く話し合い、入居者さんにとって一番の方法を考えている。パーベキュー大会やクリスマス会にご家族にも参加して頂き絆を親密にしている。ご家族の立場や気持ちを考え共に支え合う努力をしている。			
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの人から連絡があったら心おきなく話せる様配慮している。面会に来て頂いたり・電話で話して頂いたり・手紙の交換をして頂いている。入居者さんとの会話の中で話題に取り入れている。			
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者さん全員がリビングで楽しく過ごせる様に努めている。時には、スタッフが入居者さんの間に入れて頂いている。中の良い入居者さんでのテーブル配置やホーム内の人間関係に気を付けている。			

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	お見舞いに行ったり、ご家族と連絡をとったりしている。 ボランティアとして参加して頂いたりしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人本位を忘れることなく日常の会話・動作からも本人の思いをキャッチ出来る様に努力している。 なるべく希望に添える様に努力をしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居前に、これまでの生活歴等を入居者さんご本人やご家族に伺いアセスメントシートを作成したり、月日がたつ中で分かった情報を伺ったりしてスタッフで共有している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ユニットで働くスタッフからみた入居者さんの情報の交換をしながら現状の把握に努めている。毎日の全身チェックや色々なことを試して頂いたりして出来ることを把握するように努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ホーム長・主任・スタッフ・ご家族さんと定期的にケース会議を行い、入居者さん・ご家族さんの要望を伺い、日々の業務の中で話し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	現場で見た事・気付いた事を忘れぬ様メモをとり、個別の記録は細かく記録し、スタッフ間で共有することにより改善点を見つけ易くしている。大切なことは、赤字で書きスタッフ間で共有するよう努めている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	型にはまらず、入居者さんのニーズが変わった時には直ぐ対応方法を変えている。 努力はしているが、難しいこともあり出来る範囲で行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の民生委員の方や地域のボランティアの方がホームに來られフラダンスを教えてくれたり、尺八の演奏で歌ったりしている。地域のイベントに入居者さんに参加して頂いている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	定期受診をし、ご家族に報告をしている。病状によっては専門医を受診している。ご家族の意向を伺い入居者さんに一番良い医療を受けられよう話し合っている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	かかりつけの病院関係者に受診時に話す。変化があれば病院に電話し看護師に相談している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	ホーム長・主任が行っており、病院関係者と病院での治療内容や内服について、退院時の注意点など情報交換をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	終末期の入居者さんは、今後どうなっていくのか状態が変わることにご家族様と話し合っている。ご家族との密な連絡・協力の元医師と協力し取り組んだ。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	各自が勉強会に参加をしたりして学んでいる。ホームでは定期的な紙面上での勉強会は行っている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	近所の消防署の人を交えて訓練を行っている。定期的に地震・火災訓練を行い、スタッフ同士で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	長く入居者さんと共にいる為言葉使いに配慮が欠けてきている。人格を尊重し常に人生の先輩として接する様に努め、笑いのある生活に努めているが、毎日の業務の中で反省してしまうことがある。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	日々の中で入居者さんの希望を伺う様にしている。 実施しているがもう少し努めていきたい。 ご本人の意思決定がし易い方でお伺いするようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	十分な希望に添っていない。スタッフの都合を優先させてしまっている事もある。 スタッフの都合にならないようご本人のペースに合わせられるよう努力している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	入居者さんの好みを知り、希望に沿って支援している。身だしなみの好きな方にはお化粧をしてもらったり楽しんで頂いている。 マニキュアを塗ったり、おしゃれ雑誌を共に見たり買い物へ行ったりしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	共に準備をし食器を変えたり、雰囲気作りに配慮したり、ご自分で出来る事等をやって頂き、お願いして出来た後は必ずお礼の言葉を掛けているイベントの時には楽しんで料理からして頂ける様工夫している。		
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事や水分のチェック表を共有し、入居者さんの状態や好みに合わせた提供をさせて頂いている。 時々だが、食止めをして入居者さんの食べたいメニューを取り入れている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	食後等に声掛けをし歯磨きをして頂いている。入居者さんの口腔状態に合わせてガーゼを使わせて頂いたり小ぶりのブラシを使わせて頂いたりと使い分けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄の自立に向けたという考えが不十分で現状から進行した支援が出来ていないと思う。一人ひとりの排泄パターンを掴む為に細かく記入をしてパターンを掴みスタッフ間で共有し介助させて頂いている。		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	体操または手伝いの中で体を動かして頂いたり、腹部にホットタオルを当てたりマッサージを行っている。 乳製品・蜂蜜の利用工夫をしている。体操を毎日やるよう心掛けている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	好きな時に出来る限り入ってもらい、入浴剤・温度などを工夫している。入浴をしたくなる様な言葉掛けで促している。時間などで区切ってしまっている。入りたい方を優先している。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	安眠出来る様に、出来る限り日中活動的になる様努力している。安心し穏やかな気持ちで休める様にお話をさせて頂いたり、ホットミルクを飲んで頂いたりしている。不眠の時には日中でも休んでも頂いている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬についての勉強会をしたり、薬剤師に相談したりしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	季節に合った曲を流したり、花を生けたり、飾り等をしている。買い物・化粧も工夫している。入居者さんの生活歴を把握し、好きなこと・得意なことを生かして出来る趣味やお手伝いをして頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	入居者さんが行きたい時になるべくご希望に添えるように努力している。 近場のイベントで入居者さんの興味のあるような物に出来る範囲で参加して頂いている。 気軽に買い物へ行けるようにしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	今できる事を大切にし、ご家族の協力の元ご本人が困らない程度の額を持って買い物に行ける様に支援し、近隣のお店に事情をお伝えし、入居者さんが悲しい思いをしない様に協力をお願いしている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族に了承を得、したい時に電話をかけて頂いたり、手紙や届き物があった時にお礼の手紙を書いて頂いたり、入居者さんご本人から言われる事は少ない為、声をかけ電話でご家族と話せる機会を作っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共用の空間が穏やかで過ごしやすい物になるように日々気を付け、花を飾ったり、季節の歌、話などをするように工夫している。食堂から見えるように通路のプランターに花を植えている。		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	入居者さんの状況に合わせ、独りで居たい時には淋しくない様に見守り、入居者さんが輪の中に入れる様に切っ掛けを作ったり、入居者さん同士で過ごされている時にはトラブルにならない様に見守っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入居の際より、居室には馴染みの物や好きな物を置いて頂き利用者が居心地良く過ごせるようにしている。		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	トイレの場所を矢印で表し壁に貼ったり、行動を見守り安全に努め出来る事をして頂いている。歩行時に物が邪魔にならない様に気を付け、手摺等建物内部の設備を使ったり、足台等を手作りしたりしている。		